

# 惱みのるつぼ

# ○ 答者 作家 車谷長吉

頭では理解していても、心では納得できないことが、人には多くあります。どうすれば心で納得できるか。その方法は、私は分かりません。

私の父は75歳で狂死しました。66歳で肺結核になり、結核菌が脳に上ったのです。便所で用を足すのも理解できなくなつたので、毎日、畳の上で大小便

逃げ出す以外に道はありませんが……

をしていました。10歳下の母は斐にしていました。都会生活が嫌いなので、東京を厭がっています。母の面倒を見ているのは、田舎の弟です。時々、新聞・テレビに私が出るのを楽しみにしています。が、私が作家という「ならず者」になつたので、私は出入り禁止です。

義父母の看取りをするのが厭なのなら、逃げ出す以外に道はない

ありません。逃げ出せば、ホツトする、と同時に、いまよりさらに苦しい思いをしなければならないでしよう。人間としてこの世に生まれてきたことには、一切の救いはありません。救いを求めるさもしい心はあります。だから人は、四国お遍路へ行ったりするのです。弘法大師の教えに従つて。私も嫁はんと歩いて行きました。行つたけれども、私に分かったのは、作家

話しかけようとしたが、手を休めようとしなかったので、頭を下げて通り過ぎ、仏さまに出会ったような気がしたので、あとで木の陰に隠れて土下座をして拝みました。それを思い出すと、今でも涙がにじみます。あなたさまのお悩みを読んでいると、あなたさまを含めてご一家の人は、救いはないと思います。それを覺悟なさるのがよいと思われます。

## 義理の親を看取る理由は?

相談者 主婦 40代

40代の主婦です。車谷長吉さんは毎回宗教的とも言える観点から回答されていて、今回の私の相談も、そのような観点から、お答えを頂きたいのです。人はどうして、年を取った親の面倒をみなくてはいけないのでしょうか。とくに義理の親の場合です。

自分の両親が弱い立場になつてしまつたら助けてあげたい、寄り添つてあげたいのは当然ですが、私は現在、夫の両親と同居しています。

どうして苦しい思いをしながら義理の父母と同居を続け、いざ面倒を見ることをしなければいけないのか、その理由が見つかりません。

同居を始めて、義父母の強い干涉と、多忙な夫とのすれ違い生活の孤独感から、1年後には私は心の病気になりました。そこから、色々な病気を併発し9年がたちました。気持ちの支えについていた仕事も病気のため辞めざるを得なくなりました。自分の生きる意味さえわからなくなりました。

現在は治療をしながら、義父から自分の存在を消すように毎日ひつそり生活しています。同居しているわけですから、現実問題として、ゆくゆくは養父母の看取りまで私がするのです。そのことは頭ではわかっているつもりですが、そうしなければならない理由、自分を納得させる理由が欲しいのです。



である自分には救いはない、ということでした。作家は人間悪をえぐり出す人です。でも、お遍路に行けば、救いを感じる人もいると思われます。そういう人に数人、出会いました。

題字・イラスト きたむらさとし